

調査結果の要約

I. 東大阪市の広報活動について

●市政に関する情報の入手先は、「市政だより」が8割強（問7【複数回答】）

市政に関する情報の入手先は、「市政だより」が77.3%と最も高く、以下、「自治会の回覧板」（42.5%）、「新聞などのマスコミ関係」（21.5%）、「人づて（家族・知人・友人）」（20.3%）となっている。

●「東大阪市政だより」を読む習慣は、「ときどき読む」が4割強（問8）

「東大阪市政だより」を読む習慣は、「ときどき読む」が41.8%で最も高く、次いで、「必ず毎号読む」が38.1%、「読まない」が11.6%、「届かないので読む機会はない」が6.3%となっている。“読む計”（「必ず毎号読む」＋「ときどき読む」）は79.9%。

●広報番組「虹色ねっとわーく」の視聴状況は、「見ていない」が5割強（問9）

広報番組「虹色ねっとわーく」の視聴状況は、「見ていない」が53.4%で最も高く、次いで、「ケーブルテレビを視聴することができない」が25.1%、「月に数回」が13.8%、「週に数回」が5.2%、「ほとんど毎日」が0.2%となっている。“視聴計”（「ほとんど毎日」＋「週に数回」＋「月に数回」）は19.2%。

●東大阪市のウェブサイトのアクセス経験は、「アクセスしたことがない」が約7割（問10）

東大阪市のウェブサイトのアクセス経験は、「アクセスしたことがある」が26.4%で、「アクセスしたことがない」が70.2%となっている。

●東大阪市のウェブサイトでの情報の探しやすさは、「すぐに見つけることができた」が約6割（問10-1）

東大阪市のウェブサイトでの情報の探しやすさは、「すぐに見つけることができた」が60.8%で最も高く、次いで、「手間取ったが見つけることができた」（34.7%）、「見つけることができなかった」（4.6%）となっている。

●東大阪市のウェブサイトでの情報の見つけ方は、「関連するページを探し、数回の画面展開で見つけることができた」が3割半（問10-2）

東大阪市のウェブサイトでの情報の見つけ方は、「関連するページを探し、数回の画面展開で見つけることができた」が34.6%と最も高く、次いで、「Yahoo!などの検索サイトから直接、東大阪市ウェブサイト内の情報を見つけた」（33.2%）、「サイト内検索を利用して見つけることができた」（29.0%）となっている。

●東大阪市のウェブサイトにて期待する情報は、「健康・医療に関する情報」が5割強（問11【複数回答】）

東大阪市のウェブサイトにて期待する情報は、「健康・医療に関する情報」が53.0%で最も高く、次いで「災害・防災に関する情報」が43.8%、「福祉や介護に関する市のサービスの情報」が43.4%、「イベント情報など（市が主催するもの以外も含め）」が32.8%となっている。

II. 文化に対する関心や東大阪市の文化施設について

●過去2年以内に参加した文化芸術の催しは、「美術展示・展覧会」が1割弱（問12【複数回答】）

過去2年以内に参加した文化芸術の催しは、「美術展示・展覧会」が8.6%で最も高く、次いで「コンサート」が6.3%、「その他の文化芸術の催し」が5.7%となっている。一方「東大阪市内での文化芸術の催しには行かなかった」が77.6%となっている。

●文化芸術の催しに行かなかった理由は、「どこでどんな催しをしているか分からなかった」が約5割（問12-1【複数回答】）

文化芸術の催しに行かなかった理由は、「どこでどんな催しをしているか分からなかった」が50.4%で最も高く、次いで、「興味・関心のある催しかなかった」が26.6%、「時間や都合が合わなかった」が25.9%、「文化芸術の催しに関心がない」が20.5%となっている。

●東大阪市内で増えてほしい文化芸術活動の分野は、「映像（映画・プロジェクションマッピングなど）」が3割強（問13【複数回答】）

東大阪市内で増えてほしい文化芸術活動の分野は、「映像（映画・プロジェクションマッピングなど）」が31.0%で最も高く、次いで、「音楽（オーケストラ・吹奏楽・コーラスなど）」が30.1%である。一方で、「特になし」が29.8%となっている。

●市民美術センターの利用経験・認知度は、「知らない」が6割強（問14-A）

市民美術センターの利用経験・認知度は、「知らない」が61.9%で最も高く、次いで、「訪れたことがある」15.2%、「知っているが訪れたことはない」13.6%となっている。

●児童文化スポーツセンター（ドリーム21）の利用経験・認知度は、「訪れたことがある」が4割強（問14-B）

児童文化スポーツセンター（ドリーム21）の利用経験・認知度は、「訪れたことがある」が44.0%で最も高く、次いで、「知らない」28.1%、「知っているが訪れたことはない」17.9%となっている。

●郷土博物館の利用経験・認知度は、「知らない」が5割強（問14-C）

郷土博物館の利用経験・認知度は、「知らない」が53.1%で最も高く、次いで、「知っているが訪れたことはない」20.2%、「訪れたことがある」16.4%となっている。

●埋蔵文化財センター（発掘ふれあい館）の利用経験・認知度は、「知らない」が7割弱（問14-D）

埋蔵文化財センター（発掘ふれあい館）の利用経験・認知度は、「知らない」が68.8%で最も高く、次いで、「知っているが訪れたことはない」13.6%、「訪れたことがある」6.5%となっている。

●鴻池新田会所の利用経験・認知度は、「知らない」が5割弱（問14-E）

鴻池新田会所の利用経験・認知度は、「知らない」が48.3%で最も高く、次いで、「知っているが訪れたことはない」30.4%、「訪れたことがある」12.9%となっている。

●旧河澄家の利用経験・認知度は、「知らない」が約7割（問14-F）

旧河澄家の利用経験・認知度は、「知らない」が70.2%で最も高く、次いで、「知っているが訪れたことはない」15.5%、「訪れたことがある」2.9%となっている。

●司馬遼太郎記念館の利用経験・認知度は、「知っているが訪れたことはない」が6割弱（問14-G）

司馬遼太郎記念館の利用経験・認知度は、「知っているが訪れたことはない」が57.5%で最も高く、次いで、「知らない」19.5%、「訪れたことがある」15.3%となっている。

●大阪樟蔭女子大学田辺聖子文学館の利用経験・認知度は、「知らない」が6割弱（問14-H）

大阪樟蔭女子大学田辺聖子文学館の利用経験・認知度は、「知らない」が56.3%で最も高く、次いで、「知っているが訪れたことはない」29.9%、「訪れたことがある」3.5%となっている。

●宮本順三記念館（豆玩舎 ZUNZO）利用経験・認知度は、「知らない」が7割強（問14-I）

宮本順三記念館（豆玩舎 ZUNZO）の利用経験・認知度は、「知らない」が74.4%で最も高く、次いで、「知っているが訪れたことはない」12.6%、「訪れたことがある」1.4%となっている。

●大阪商業大学商業史博物館の利用経験・認知度は、「知らない」が7割強（問14-J）

大阪商業大学商業史博物館の利用経験・認知度は、「知らない」が73.9%で最も高く、次いで、「知っているが訪れたことはない」13.2%、「訪れたことがある」1.7%となっている。

●大阪商業大学アミューズメント産業研究所の利用経験・認知度は、「知らない」が8割弱（問14-K）

大阪商業大学アミューズメント産業研究所の利用経験・認知度は、「知らない」が77.2%で最も高く、次いで、「知っているが訪れたことはない」10.7%、「訪れたことがある」0.9%となっている。

●文化施設を知っているが訪れたことがない方が、訪れるために必要だと思う取組みは、「場所や催し内容などの情報発信の充実」が5割弱（問14-1【複数回答】）

文化施設を知っているが訪れたことがない方が、訪れるために必要だと思う取組みは、「場所や催し内容などの情報発信の充実」が49.2%で最も高く、次いで、「魅力的な催しの開催」45.5%となっている。

Ⅲ. 東大阪市の観光振興について

●東大阪市の誇れる地域資源の有無は、「わからない」が6割強（問15）

東大阪市の誇れる地域資源の有無は、「わからない」が63.7%で最も高く、次いで、「ある」20.5%、「ない」13.0%となっている。

●効果が期待できる観光振興の取組みは、「花園ラグビー場での新たなラグビーイベントや試合以外のさまざまなイベントの開催」が7割弱（問16【複数回答】）

効果が期待できる観光振興の取組みは、「花園ラグビー場での新たなラグビーイベントや試合以外のさまざまなイベントの開催」が67.7%で最も高く、次いで、「町工場のモノづくり現場の見学や体験」49.3%、「旧跡地・文化施設・商店街を回遊できるまち歩き」27.8%となっている。

●旅行者が増える地域になることへの考えは、“よいと思う計”（「よいと思う」＋「まあよいと思う」）が6割強（問17）

旅行者が増える地域になることへの考えは、「よいと思う」が37.9%で最も高く、次いで、「どちらともいえない」29.7%、「まあよいと思う」23.6%となっている。“よいと思う計”は61.5%。

●国内外の旅行者との交流を望むかは、「どちらともいえない」が4割強（問18）

国内外の旅行者との交流を望むかは、「どちらともいえない」が42.4%で最も高く、次いで「できれば望む」24.9%、「あまり望まない」が16.1%となっている。“望む計”（「積極的に望む」＋「できれば望む」）は35.3%で、“望まない計”（「あまり望まない」＋「全く望まない」）を14.5ポイント上回っている

●旅行者が多いまちになることで市民としての誇りや愛着が高まるかは、“そう思う計”（「そう思う」＋「まあそう思う」）が5割強（問19）

旅行者が多いまちになることで市民としての誇りや愛着が高まるかは、「どちらともいえない」が29.3%で最も高く、次いで、「まあそう思う」25.7%、「そう思う」25.1%、「あまりそう思わない」14.0%となっている。“そう思う計”は50.8%。

IV. 「景観」について

●地域の景観への意識は、「あまり気にしていない」が3割弱（問20）

地域の景観への意識は、「あまり気にしていない」が28.8%で最も高く、次いで、「まあ気にしている」28.1%、「気にしている」20.9%、「どちらともいえない」11.4%となっている。“気にしている計”（「気にしている」＋「まあ気にしている」）は49.0%で“気にしていない計”（「あまり気にしていない」＋「気にしていない」）を13.0ポイント上回っている。

●東大阪市の好きな景観は、「生駒山などの自然の景観」が7割弱（問21【複数回答】）

東大阪市の好きな景観は、「生駒山などの自然の景観」が69.5%で最も高く、次いで、「特になし」17.1%、「商店街などの商業の景観」16.3%となっている。

●建物が市の基準に合うよう事前に届出をする制度を戸建住宅にも導入すべきかは、「わからない」が約3割（問22）

建物が市の基準に合うよう事前に届出をする制度を戸建住宅にも導入すべきかは、「わからない」が30.7%で最も高く、次いで、「できれば導入したほうがよい」29.8%、「導入しなくてよい」が20.7%、「ぜひ導入したほうがよい」15.6%となっている。“導入したほうがよい計”（「ぜひ導入したほうがよい」＋「できれば導入したほうがよい」）は45.4%で、「導入しなくてよい」を24.7ポイント上回っている。

●充実をめざして取り組むべき街並みは、「生駒山山麓地域において、生駒山の自然と調和した街並み」が約5割（問23【複数回答】）

充実をめざして取り組むべき街並みは、「生駒山山麓地域において、生駒山の自然と調和した街並み」が50.9%で最も高く、次いで、「花園ラグビー場周辺地域において、「ラグビーのまち」として訪問者をおもてなしできるような街並み」が44.6%、「高井田地域など住宅と工場が混在する地域において、緑などを取り入れたうるおいのある街並み」が29.5%となっている。

●「景観まちづくり」に参加したいと思うかは、「どちらともいえない」が4割弱（問24）

「景観まちづくり」に参加したいと思うかは、「どちらともいえない」が37.5%で最も高く、次いで、「できれば参加したい」21.0%、「あまり参加したくない」17.0%、「参加したくない」13.1%、「参加したい」8.5%となっている。“参加したい計”（「参加したい」＋「できれば参加したい」）は29.5%で、“参加したくない計”（「あまり参加したくない」＋「参加したくない」）30.1%とほぼ同数である。

V. 健康に関する生活習慣について

●たばこを吸っているかは、「吸ったことはない」が5割弱（問25）

たばこを吸っているかは、「吸ったことはない」が49.6%で最も高く、次いで、「過去に吸っていたが、今はやめた」28.2%、「吸っている」19.7%となっている。

●たばこをやめたいと思うかは、「やめたいとは思わない」が3割半（問25-1）

たばこをやめたいと思うかは、「やめたいとは思わない」が35.3%で最も高く、次いで、「吸う本数を減らしたい」34.5%、「やめたい」29.9%となっている。

●アルコール飲料を飲むかは、「たまに飲む」が3割半（問26）

アルコール飲料を飲むかは、「たまに飲む」が35.9%で、次いで、「飲まない」32.2%、「ほとんど毎日、または週に何回か飲む」28.6%となっている。“飲む計”（「ほとんど毎日、または週に何回か飲む」＋「たまに飲む」）は64.5%。

●1日に飲むアルコール量は、「1合から3合まで」が5割弱（問26-1）

1日に飲むアルコール量は、「1合から3合まで」が48.3%で最も高く、次いで、「1合まで」42.3%、「3合以上」9.5%となっている。

●節度ある適度な飲酒量の認知は、「知っている」が5割強（問27）

節度ある適度な飲酒量の認知は、「知っている」が51.7%で、「知らない」が44.5%となっている。

●1日30分以上の運動を週2回以上行っているかは、「行っていない」が6割強（問28）

1日30分以上の運動を週2回以上行っているかは、「行っている」が33.0%で、「行っていない」が64.0%となっている。

●運動を1年以上継続しているかは、「1年以上継続している」が8割強（問28-1）

運動を1年以上継続しているかは、「1年以上継続している」が82.8%で、「1年未満」が17.0%となっている。

VI. 識字について

●読み書きができる程度は、「不自由なく読んだり書いたりできる」が9割弱（問29）

読み書きができる程度は、「不自由なく読んだり書いたりできる」が86.1%で最も高く、次いで、「「かな」と少しの「漢字」なら、読んだり書いたりできる」9.3%、「まったく読んだり書いたりできない」1.9%、「「かな」だけなら、読んだり書いたりできる」1.0%となっている。

●読み書きに不自由している方を知っているかは、「知らない」が9割弱（問30）

読み書きに不自由している方を知っているかは、「知っている」が10.0%で、「知らない」が86.5%となっている。読み書きに不自由している方をたずねたところ、『家族・親戚』が39.7%と最も高くなっている。

●読み書きに不自由している方の識字程度は、「簡単な読み書きはできるが、日常生活をしていくうえで不自由している」が4割弱（問30-1【複数回答】）

読み書きに不自由している方の識字程度は、「簡単な読み書きはできるが、日常生活をしていくうえで不自由している」が39.7%で最も高く、次いで、「簡単な文字の読み書きができない」35.5%、「簡単な読み書きはできるが、社会参加をしていくうえで不自由している」24.1%となっている。

●識字問題に対して市が取り組むべきことは、「読み書きを学ぶ教室を充実すること」が6割強（問31【複数回答】）

識字問題に対して市が取り組むべきことは、「読み書きを学ぶ教室を充実すること」が63.7%で最も高く、次いで、「市役所の案内板・届出書・パンフレットなどにふりがなをつける」44.1%、「社会参加を促進するための多様な学習機会を充実する」31.4%となっている。

●識字問題への取組みの充実度（「識字学級」「よみかき教室」「日本語教室」などによる識字学習機会の提供）は、「取組みを知らない」が6割弱（問32-A）

識字問題への取組みの充実度（「識字学級」「よみかき教室」「日本語教室」などによる識字学習機会の提供）は、「取組みを知らない」が58.9%で最も高く、次いで、「どちらともいえない」18.5%、「あまり充実していない」5.8%、「やや充実している」5.3%となっている。

●識字問題への取組みの充実度（市政だより・ホームページなどを通じた識字情報の提供・発信）は、「取組みを知らない」が5割強（問32-B）

識字問題への取組みの充実度（市政だより・ホームページなどを通じた識字情報の提供・発信）は、「取組みを知らない」が51.8%で最も高く、次いで、「どちらともいえない」18.0%、「やや充実している」11.0%、「あまり充実していない」6.4%となっている。

●識字問題への取組みの充実度（行政による読み書きの相談）は、「取組みを知らない」が約6割（問32-C）

識字問題への取組みの充実度（行政による読み書きの相談）は、「取組みを知らない」が60.9%で最も高く、次いで、「どちらともいえない」16.1%、「あまり充実していない」5.7%、「やや充実している」4.5%となっている。

●識字問題への取組みの充実度（「国際識字デー・市民のつどい」「識字展」などのイベントによる啓発活動）は、「取組みを知らない」が6割強（問32-D）

識字問題への取組みの充実度（「国際識字デー・市民のつどい」「識字展」などのイベントによる啓発活動）は、「取組みを知らない」が64.4%で最も高く、次いで、「どちらともいえない」16.7%、「あまり充実していない」4.9%、「やや充実している」2.7%となっている。

●識字問題への取組みの充実度（日本語学習に係るボランティア参加の仕組みづくり）は、「取組みを知らない」が6割強（問32-E）

識字問題への取組みの充実度（日本語学習に係るボランティア参加の仕組みづくり）は、「取組みを知らない」が63.4%で最も高く、次いで、「どちらともいえない」15.3%、「あまり充実していない」6.1%、「やや充実している」2.8%となっている。

●識字問題への取組みの充実度（市政だより・チラシなどのふりがな、外国語表記や絵文字による案内表示）は、「取組みを知らない」が5割弱（問32-F）

識字問題への取組みの充実度（市政だより・チラシなどのふりがな、外国語表記や絵文字による案内表示）は、「取組みを知らない」が49.2%で最も高く、次いで、「どちらともいえない」18.2%、「やや充実している」11.2%、「あまり充実していない」6.3%となっている。

●識字問題への取組みの充実度（点字や手話など識字学習機会の提供）は、「取組みを知らない」が6割弱（問32-G）

識字問題への取組みの充実度（点字や手話など識字学習機会の提供）は、「取組みを知らない」が58.5%で最も高く、次いで、「どちらともいえない」17.5%、「あまり充実していない」6.7%、「やや充実している」4.5%となっている。

●識字問題への取組みの重要度（「識字学級」「よみかき教室」「日本語教室」などによる識字学習機会の提供）は、「重要」が4割弱（問33-A）

識字問題への取組みの重要度（「識字学級」「よみかき教室」「日本語教室」などによる識字学習機会の提供）は、「重要」が36.2%で最も高く、次いで、「やや重要」28.6%、「どちらともいえない」21.9%、「重要でない」3.6%となっている。

●識字問題への取組みの重要度（市政だより・ホームページなどを通じた識字情報の提供・発信）は、「やや重要」が3割強（問33-B）

識字問題への取組みの重要度（市政だより・ホームページなどを通じた識字情報の提供・発信）は、「やや重要」が31.5%で最も高く、次いで、「重要」30.0%、「どちらともいえない」23.9%、「重要でない」4.0%となっている。

●識字問題への取組みの重要度（行政による読み書きの相談）は、「重要」が3割弱（問 33-C）

識字問題への取組みの重要度（行政による読み書きの相談）は、「重要」が28.9%で最も高く、次いで、「やや重要」28.8%、「どちらともいえない」26.5%、「重要でない」4.0%となっている。

●識字問題への取組みの重要度（「国際識字デー・市民のつどい」「識字展」などのイベントによる啓発活動）は、「どちらともいえない」が4割弱（問 33-D）

識字問題への取組みの重要度（「国際識字デー・市民のつどい」「識字展」などのイベントによる啓発活動）は、「どちらともいえない」が39.7%で最も高く、次いで、「やや重要」24.3%、「重要」、17.5%「重要でない」5.5%となっている。

●識字問題への取組みの重要度（日本語学習に係るボランティア参加の仕組みづくり）は、「どちらともいえない」が約3割（問 33-E）

識字問題への取組みの重要度（日本語学習に係るボランティア参加の仕組みづくり）は、「どちらともいえない」が30.3%で最も高く、次いで、「やや重要」28.8%、「重要」24.7%、「重要でない」4.3%となっている。

●識字問題への取組みの重要度（市政だより・チラシなどのふりがな、外国語表記や絵文字による案内表示）は、「重要」が3割強（問 33-F）

識字問題への取組みの重要度（市政だより・チラシなどのふりがな、外国語表記や絵文字による案内表示）は、「重要」が32.1%で最も高く、次いで、「やや重要」32.0%、「どちらともいえない」21.6%、「重要でない」4.2%となっている。

●識字問題への取組みの重要度（点字や手話など識字学習機会の提供）は、「重要」が3割強（問 33-G）

識字問題への取組みの重要度（点字や手話など識字学習機会の提供）は、「重要」が34.0%で最も高く、次いで、「やや重要」31.1%、「どちらともいえない」21.7%、「重要でない」3.2%となっている。